

(1) 重症筋無力症について正しいのはどれか. 2つ選べ.(48A90)

正解 3, 5

1. 筋電図検査において末梢神経の連続刺激で振幅の増大がみられる.

×: 疲労試験といい, 重症筋無力症では電位の振幅が漸減(Waning現象)する. 漸増はLambert-Eaton症候群でみられる (minimum essence参照).

2. 抗アセチルコリン受容体抗体陽性率は10%である.

×: 本抗体の陽性率は85~90%と非常に高い.

3. 症状の日内変動がある.

○: 朝方は症状が軽度, 夕方になると症状の増悪(筋力低下, 易疲労性)を認める

4. 嚥下障害の合併はない.

×: 舌咽頭筋が侵されるため, 構音障害, 舌筋運動障害があり, 嚥下障害も併発する

5. 眼瞼下垂がみられる.

○: この疾患の特徴の一つ

(2)重症筋無力症で正しいのはどれか。(49A89)

正解 5

1. 女性より男性に多く発症する.

×: 男女比は1:2で, 20~40歳の女性に多い(minimum essence参照)

2. 四肢では遠位の筋力低下が起きやすい.

×: 近位筋優位の筋力低下がみられる. また, 上肢の方が下肢より侵されやすい

3. 夕方にかけて症状は軽快する.

×: 日内変動があり夕方になると症状の増悪(筋力低下, 易疲労性)を認める

4. 末梢神経の連続刺激で振幅の増大がみられる.

×: 反復刺激試験の誘発筋電図において, 電位の振幅の漸減(Waning現象)がみられる(minimum essence参照)

5. コリンエステラーゼ阻害薬が用いられる.

○: コリンエステラーゼ阻害薬により, アセチルコリンの分解を阻止し, 受容体への統合確率を高めることにより, 神経筋接合部での伝達障害を改善させる

(3)重症筋無力症について正しいのはどれか。(52P88)

正解 3

1. 起床時に症状が強い.

×: 日内変動があり, 夕方になると症状の増悪(筋力低下, 易疲労性)を認める

2. 悪性腫瘍の合併が多い.

×: 胸腺に異常があるのは約80%(胸腺過形成約65%)だが, 胸腺腫の合併は約10~15%であり, まれに悪性胸腺腫を合併する.

3. 自己免疫性疾患である.

○: 後シナプス膜のアセチルコリン受容体に対する自己抗体が血中に検出される自己免疫疾患である

4. 女性よりも男性に多い.

×: 男女比は1:2で, 20~40歳の女性に多い(minimum essence参照)

5. 40歳以前の発症は稀である.

×: 小児, 女性では20~40代, 男性では50~60代に発症のピークがある
(minimum essence参照)